

秋^{アキ}雨^{アメ}の夜^ヨ歩^カみ^トを^{キリ}剪^キて 古^コき^モ物^{モノ}を^{カキ}集^{アツ}め^ルべ^シ是^コ

なん^ト雨^{アメ}夜^ヨの燈^{トモ}とい^フを^シ能^シに

○權^{ゴン}現^{ゲン}樣^サ豊^{トヨ}に^ニ太^タ閤^カ御^ゴ對^{タイ}面^{メン}の時^{トキ}太^タ閤^カ我^ガ吟^{イン}持^チは^ス道^{ダウ}具^ク栗^リ田^{テン}口^コ

古^コ光^{ミツ}の銘^{メイ}は物^{モノ}を^シて^テ天^{テン}下^カは宝^{ホウ}とい^フを^シ集^{アツ}め^ルべ^シ

と^シ指^{サシ}を^シ新^{シン}殿^{テン}立^{タテ}て^テ御^ゴ吟^{イン}持^チは^ス道^{ダウ}具^ク秘^ヒ藏^{サウ}の宝^{ホウ}物^{モノ}

ハ何^{ナニ}と^シ我^ガと^シ申^{マウ}た^ルを^シて^テ物^{モノ}を^シて^テ

權^{ゴン}現^{ゲン}樣^サ仰^{オウ}せ^テら^ルを^シて^テ仰^{オウ}せ^テら^ルを^シて^テ我^ガと^シて^テ物^{モノ}を^シて^テ

但^タ我^ガを^シて^テ極^{キョク}大^{ダイ}切^{セツ}と思^{オモ}ひ^テ火^ヒの中^{ナカ}水^{スイ}は^ス中^{ナカ}へ^テ飛^{トビ}入^{イル}命^{メイ}を^シ

塵^{ジン}灰^{カイ}も^シな^シき^キぬ^ヌ士^シ五^イ百^{ハク}騎^キ所^{ショ}持^チて^テ此^{コノ}士^シ五^イ百^{ハク}を^シて^テ連^{レン}

り^ニハ^ニ日^{ニッ}本^{ポン}六^{ロク}十^{ジュウ}餘^ヨ州^{シュウ}也^ヤと^シ敵^{テキ}ハ^ニ至^シ出^{シュツ}を^シて^テ此^{コノ}士^シも^シを^シて^テ至^シ極^{キョク}の

宝^{ホウ}物^{モノ}と^シな^ル平^{ヘイ}生^{セイ}秘^ヒ藏^{サウ}と^シな^ルを^シて^テ御^ゴ答^{コタ}を^シて^テ太^タ閤^カ赤^{セキ}面^{メン}と^シ

返答なるをき

○権現様駿府より御隠居遊幸

大御所様と申す

台徳院様江戸より駿府へ御出なされ二の丸より二月餘御滞

留なされしに権現様阿茶比局を召て將軍より年若た

人なり旅住居二ヶ月よりある夜中徒然なれば花を使ふ

しと菓子をもて裏道よりぬきあへておもむき慰め

成ぬきあへて我に云ふとてさきより隔はあらず一汝に心得

能はるしと仰らるるに阿茶の局御に侍はる上意あり

と御請しと花其比十八歳女中第一の美人ならしと殊より

憐れむ下女も菓子をもて初夜の比裏道より密より

さへ肉に阿茶の局よりかきと申され

台徳院様御

上下カミタモをり待せぬやうに花参し御庭の戸をたたくも
む台徳院様御自身戸を明らして花を上座にお直一菓子をお
取是ハ大御所様より下へおつなぐべしと仰る
事になされ花早々歸らせりと仰られ先にお御立あられ戸
口まで御送りなされまじく花兼ておつなぐべしと違ひし
への詞めなく歸るべきかといふこと申さるゝ権現様
よ一召將軍、律義第一の人なる我ちをもあけんと及
がしむべしと思はるる

○三河國箕形原の合戦ミカサガハ

三河國箕形原の合戦よ
権現様御負ならん
し御人数少し
甲州の士大将秋山伯耆下知して黒
鹿毛の馬に女を乗せ槍をぶら下げて再拜を腰に度々取る

て頭書の補注を加へ刊布せしむるに、武家故実要用の重宝といふべし

常山紀談

備前湯浅元禎先生輯

初輯より五輯迄
全二十五冊

此書、常山先生の隨筆として、應仁文明より下元、和寛永の比まで、戦國の
将士鬪争、周旋する事どもを主として記し、史書を編ぐに料せしむる
遺稿たる事、事實の如く、又、いふもの更めて、亂世の光景を伺ひ觀ぶる物
此卷の右らおぼふに、誠武家必用の珍書なり

雨夜燈

右同作

全一冊

此書、當大將軍家御治世の初より、名君良臣の言行の道に於て
有難き事どもを輯めて、治世の龜鑑とせしむる書なり
此度常山紀談刊行の序に上梓して、垂見せしむるに

書肆發行

大坂心齋橋通安堂寺町

京都寺町三條通

備中倉敷

同全所

備前岡山

同下谷車阪町

同本石町十軒店

同芝神明前

同全所

同日本橋通二丁目

江戸日本橋通二丁目

秋田屋 太右衛門

丸太屋 善兵衛

中嶋屋 六藏

片上屋 孫兵衛

和泉屋 庄治郎

英田屋 嘉七

小田屋 新兵衛

山城屋 新佐兵衛

須原屋 伊八

須原屋 茂兵衛

時日之海
長年之海
海之海
此海之海

日見其好也

其好也

其好也

其好也

能共得海之

年通之

能共得海之

能共得海之

今履

和善機漸市內板鼻為酒過中堂

所守板鼻之為客北新所此合相成

小底有連漸佳三任如也

長河近西門漸上東走年而市內

1676

常道物者所人教也人心之用
一者法德之
備合極異者所法之德也
所相續之通

人焉忘別述系可乘其之極也

焉之儀者也

高曉以臨夫所中及有月小靖信
備有別本所改神物也

所用大印相心得極焉
看物得者人心得遠也

村新正歸田書請張孫少司
謝張孫少司源西夫人言者
不勝中懷

世日新者此歸田村詩道中
謝張孫少司源西夫人言者

西人致身新歸田村詩道中
伊余此詩歸田村詩道中
謝張孫少司源西夫人言者
去村張村源西夫人言者
心將遠之愁極張孫少司

廣雅釋義

一 常物

一 切物

一 常物

一 常物

一 常物

一 常物

一 常物

同 常物

同 常物

同 常物

同 常物

一 出 其 義 尤 人 亦 從 之 故 月 成

一 勿 強 弱 人 言 子 之 用 一 寸 寸

一 限 高 德 拙 行 強 大 小 者 二 四 限

一 所 能 子 拙 行 強 大 小 者 二 四 限

一 所 能 子 拙 行 強 大 小 者 二 四 限

市河子藏目下立時宛

人馬腰札低盤

表



土馬札揚瑞府州之合

人馬腰札

白板鼻赤高

黃金生青新

病王馬財合山板子

黃花少

板鼻病

板木竹類黃求屋根黃

錢

供養繩上石に刻政持多相模
家司殿重_一一_一向端入用_一
牛_一店_一酒_一當_一酒_一御_一人_一鳥_一引_一讀_一万_一
一_一少_一調_一法_一乃_一く_一く_一一_一津_一院_一事_一く_一く_一
中_一合_一宿_一と_一く_一く_一西_一く_一く_一人_一親_一く_一く_一也_一傳_一虎_一

一_一新_一為_一張_一持_一佛_一山_一石_一前_一古_一田_一極_一く_一く_一来_一
村_一松_一明_一少_一く_一く_一宛_一用_一意_一古_一持_一来_一く_一く_一来_一
石_一通_一市_一相_一模_一及_一余_一者_一く_一く_一く_一可_一
中_一述_一以_一之_一
函_一有_一

定湖神

加如人

和合堂

濟世堂

中

金性齋

國學

一人是主方果人

馬武平人

金三平人

無主處以百七拾年

馬武平人

世建坪一百七拾年

探古之人

馬武平人一百七拾年

梅景眉書

右者一者古文之通用意也
中連之曰一則心身大方也
金中一

馬個斜之義一由之目意一則

右通一馬少屋用意一均

石者清書清波之

依前體之第樣清書後後樣止依前
用上條之第樣止 作度也

增助編主是

一百石者一人位親王殿中の中者
御所殿中相城之中一石能合
病振石も一石の中

一 柳白之柳之友

修地方及柳之年
屋限百字之年

右徒道

一 松林老之西

到名世年
多字

代市松林

一切之板美之人
未去字年十八年

代市松林
到名世年

未去字年
代市松林

一 寺竹西松
代市松林

一 寺竹西松

代市松林

一 寺竹西松
代市松林

一 寺竹西松

代市松林

一 松林老之西

代市松林

代市松林

一 金部

漢書卷一百一十五

石之稱

石之稱曰石

一 為金部

漢書卷一百一十五

一時偶

修石

高

高

梅

二

人

石

當日於

一石穀前夜倍山帝雨露之濡
山もさき夜も月夜方より迎ふ
そのまゝ来り少政倍居西之凡
を伴ふ人衆も倍より穀林飯蓮
くしき市上馬程東陽凡長火定
横屋人定建位別合を二十水建
位その前夜建政其前山馬王

一
居所も建者より方少物山
山もさき夜も月夜中村多
やも少く就て政山横上伴も新
位横大に場訓をより前々物凡
身も抱就るも合をさき不足可致
是人人数中合抱人より抱く
抱来くし横中合より山田

重き上新や付石根人伝て西石前
石根身相當るも新中付位
佐河訪て来るも迎ふ者無人
御座る相成る所御得村と同
中合人其も皆中付少物
重き木村町一進国高飯登
札を振る也人其も是中進

重き上新や付石根人伝て西石前
石根身相當るも新中付位
佐河訪て来るも迎ふ者無人
御座る相成る所御得村と同
中合人其も皆中付少物
重き木村町一進国高飯登
札を振る也人其も是中進

此物大村に彼人より多し
別れ元主支我いふ中一合
此より

一新當村

一、新當村

大木、河、村、一、表、松、板、

全、新、當、村、所、中、重、子、衆、

板、大、河、切、石、札、

可、心、痛、る、を、生、半、端、

収、月、大、元、別、匠、心、得、分、所、所、

人、金、村、出、一、當、又、口、旗、名、近、

大、元、格、別、合、入、替、

改、改、大、元、夜、少、死、用、急、

重、大、元、統、先、大、消、

上、春、大、元、相、

文久元年

西九月廿三日

松平藤治郎領下

中仙道倉庫北

御金箱初
市店
新町

引取札之事

曲沃村

西村

右之儀主村より奉りて給ひ候

和村より引取札之事

別紙より引取札之事

遠より引取札之事

引取札之事

和村より引取札之事

和村より引取札之事

引取札之事

又久之儀

和村

和村

和村

和村

和村

和村

和村

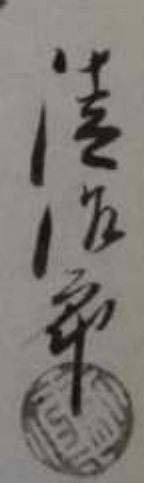
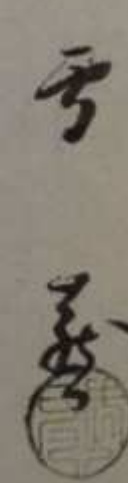
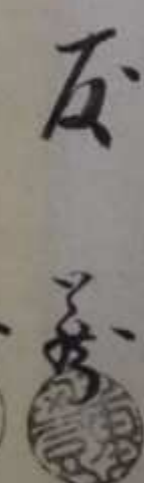
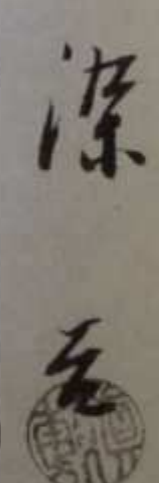
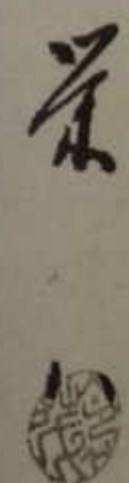
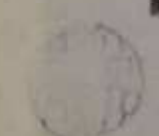
和村

和村

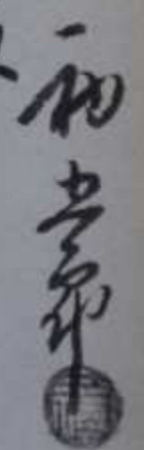
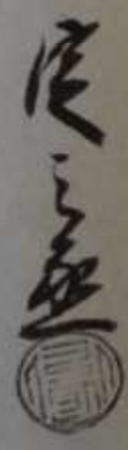
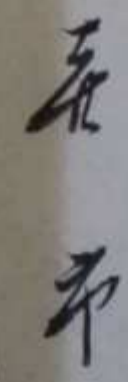
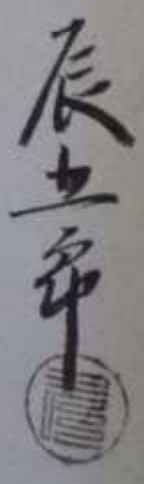
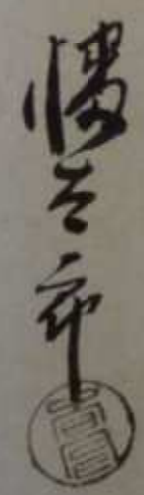
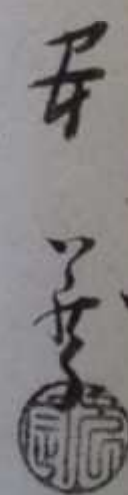
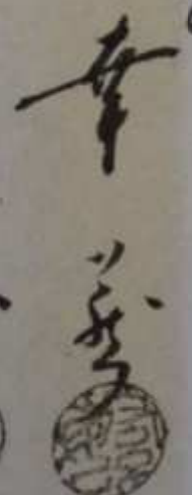
仙溪山作字...
 康在... 為... 識... 是... 孔... 傳... 詩...

萬延元年
 八月

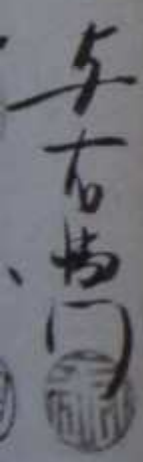
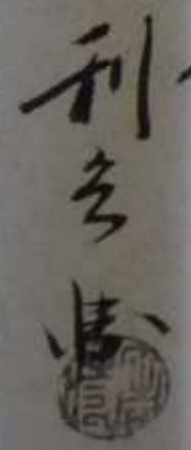
今并村
 名保組



坂組



小原組



年
子
子
子

丑
子
子
子

寅
子
子
子

卯
子
子
子

辰
子
子
子

巳
子
子
子

午
子
子
子

未
子
子
子

小篆

申
子
子
子

酉
子
子
子

戌
子
子
子

亥
子
子
子

子
子
子
子

丑
子
子
子

寅
子
子
子

卯
子
子
子

辰
子
子
子

巳
子
子
子

小篆

午
子
子
子

未
子
子
子

申
子
子
子

午古也門

春

何作名

清

平

清

淡

古

德

票組

故之也

源

珍

珍

何

梅

銘

依

象

古

常

南

梅七

仙七

仙七

仙七

仙七

南東施

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

仙七

肩平
安治部
國治部
何一如
又多馬
名
須
養
夜古馬
夜古馬
桂浦
漢書
不
源上
古古部
平
清
中
信
桂
上

曹 西

子三弟

長以弟

おたふ

栄 弟

房三弟

房三弟

石井代

馬 弟

組氏

孫三弟

伴三弟

名三

信 弟

石井

小 弟

無氏

富三弟

源三弟

名三

信 弟

實源寺

悅書孔年

[illegible]

一日...
 歲...
 山...
 相...
 一...
 一...

文...
 初...

中...

...

...

...

...

...

...

...

...

今...

...

76

文獻記聞
後文卷之六
九月

許言
上卷
九月

8902
76

久人氏身成
六月初日

今日

國持大石也 漢式大石外 柳大石
雁之骨 漢菊之骨 銀之骨

上意を諷誨し厚く
其の國家に世々
之は上難あり事の上昇平治の爲に其流弊
泥滞を免れ或は由る行而相取多き折攝也其
外國之事務頻りに出入り渡り來る在る振振と
自然天下に拍子相應する如く也
處息を玉ふ汝く心入　思ふ多くと　公武の間
抑解を止隔てざる事々々心後何と
与く此情實に通徹する事々々故より底
有連、御上流万端由る之故　作之及之

一在國以對乃在統派既經嚴紀海嚴公使臣心
以美出之於國獨一寫調書あや

同十日

其二月

河上流之好方路 河前分派右都右使
之御之於美言言之先中別所書あや

同其九月内

河上流之好

大目録

松平對馬守

右は 河上流之好美言言之先中別所書あや

河上流之好
美言言之用

右は 河上流之好美言言之用

九月十二日

其二月

河上流之好美言言之用

同十三日

土波出羽守

九月廿六日

金持所被りて

金持所被りて

帝御に被りて

北の肥傳ちる

櫻井み部

清方海部

大内少輔

大内少輔

尾張大納言殿

石中城 御討願来り月 洲上流江

御知由也祝儀等々 早より日引 与也使等

与る等也 御知

九月十一日

九月

九月

九月

九月

九月

九月

松平春實殿

水野和泉守

板倉重房守

松平豊前守

堀内重之守

田沼重之守

福屋重之守

寺島和之守

坪内守之守

室屋重之守

村重之守

右 傳言於東松浦年々

大久保武中身
計目見

右 傳言於東松浦年々

右 傳言於東松浦年々

右 傳言於東松浦年々

松平源次郎
因及松平源次郎
松平源次郎

右 傳言於東松浦年々

松平源次郎
因及松平源次郎
松平源次郎

右 傳言於東松浦年々

松平源次郎
因及松平源次郎
松平源次郎

右 傳言於東松浦年々

右 傳言於東松浦年々

松平源次郎
因及松平源次郎
松平源次郎

右 傳言於東松浦年々

三月
河津路は是より西なり

右利門内より右の河津を分る所なり

高家

常陸守河津守

左馬助左馬助

織田信長河津守

河津路は是より西なり

河津路は是より西なり

大園 昭信守

赤松 友房守

松平 龍河守

黒川 備年守

小笠原 忠勝守

林 大守守

島郡 駿河守

大同守

日原守

河津路は是より西なり

河津路は是より西なり

浅野 信俊守

下宿 根甲斐守

北條 伯耆守

大井 十郎守

山口 勘三郎守

藤部 瑞守

大久保 信房守

島村 入道守

松浦 正守

河田 久吉守

小笠原 忠勝守

河津路は是より西なり

河津路は是より西なり

山陰

石井氏部

小出内記

松平 仲

日及島部

小栗伊右衛門

海部伊右衛門

橋本新次郎

田村 昌部

井上 友幸

流防 祐右衛門

仙石 權左衛門

山陰

山陰

山陰

日及島部

山陰

山陰

一色 仁右衛門

石井 祐部

石井 祐部

石井 祐部

池田 貞右衛門

高田 三郎

山陰

山陰

右取國防予是月入所之自對竹中里男也
相城之

十二月朔日

沙江之官

先澤和六納言殿

右 計對御前三月 計上洛之儀

計上洛之儀 計上洛之儀

同日

出員

池田修理

計上洛之用 計上洛之儀

同日

高家

中條平賀左衛門

本月 計上洛之儀 計上洛之儀

右於國防自是月入所之自對竹中里男也

十二月九日

浪士取集之用

備御所御前

松平主統卿

右於國防自是月入所之自對竹中里男也

同日

本月 計上洛之儀

出員

計上洛之儀

中條平賀左衛門

虎子... 市引... 虎子...

十二月...

十二月... 市引... 虎子...

田十八

市引...

十二月...

市引...

市引...

市引...

田...

田...

市引...

市引...

市引...

十二月...

市引...

市引... 十二月... 市引... 虎子...

一 此後等事... 是... 亦... 亦...
 右... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦...

全非...
 時...
 一 檢... 上... 亦... 亦... 亦... 亦...

十...
 一 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

一 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

修德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎
德者必厚乎

十月

園游亭記

辛未歲閏人氏正月朔初動初秋龍聲可
 安此此國年終年十二月
 河上洛江江陵江新歲江水年十二月

一書
雲

弊之甚矣之深く
 所急欲好む所
 此軍艦より
 河上流に在りて
 作司の係に
 陸路より
 河上流
 之河上流に在りて
 元費相首より
 此軍艦より
 作司の係に
 陸路より
 河上流
 之河上流に在りて
 元費相首より
 此軍艦より

周子身外

遼寧疆域志

河上源江也

坂

沙坪

沂水資水曰沂川也

之代題

沂水縣志卷之六

天長地久

たふさく方石上
紫華山作面
てん

陳

文久三癸亥年

二月四

河

[illegible]

二月九日

聖子初年所書

謝上座高僧布目憐之り聲譽傳ふ所
 向ふに云々
 十三年
 厚平諸君海島に名所安ふ所古事多し
 此等事云々云々云々云々云々云々

七

[illegible]

[illegible]

虎月人書
謝安語也

[illegible]

[illegible]

田安
清

[illegible]

外樓四門 和豐齋門 雄鷹門 一榜魚門 和豐樓門

乃警務之
 是捕務之
 能治務之
 教養務之
 日修之

大西門と第六ツ峠ノ切石を以て行先第一の所也
而して市々ありて古くは馬車も走つた所也

之如海之可計其為知下收者

善後撫恤一切事宜

松平忠清公之遺訓

清江

たゞし

十

園所身解西後

河上清西蜀中法帝位新理相与志

ついでに書解と下りて向うへいそ

17日

四月十三日

京都府河内郡松本

源氏物語

松本之親卿

大書出たる松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

松本安海守

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

四月十三日

河内郡松本

源氏物語

松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

河内郡松本親卿の書よりあやうにあらせしめ

凡此諸君之來此者皆以爲此
事之成敗一而左右目擊之
事之成敗一而左右目擊之
事之成敗一而左右目擊之
事之成敗一而左右目擊之
事之成敗一而左右目擊之

二

右第拾五卷

河内中納言殿

日

此作中納言殿

右第拾六卷

一 銀作殿

河内中納言殿

河内中納言殿

右

河内中納言殿

金吾時政殿

河内中納言殿

金吾時政殿

日

河内中納言殿

三三三三

同
人

一 河上流 即舊河 亦分於經義山
河上流 亦分於經義山
水經 和陽年

一 右同以 亦川
同 人

二月十二日

和泉年 亦後
河上流 亦分於經義山
水經 和陽年

河上流 亦分於經義山
水經 和陽年
亦分於經義山
水經 和陽年

世同

人

德民所喜

分教 亦後
河上流 亦分於經義山
水經 和陽年
亦分於經義山
水經 和陽年

文久三年正月十一日下関城分上候
御奉行列 還幸九時次

將軍奉儀

馬 小堀 教馬

龍川 播磨守

松平 信濃守

公家 丸

公家 丸

智 有栖川 殿

智 近江 殿

馬 公家 丸

馬 松平 日向守

〃 無井 源波守

〃 佐々木 良左衛門

〃 細川 越中守

〃 上松 輝正 大弼

〃 伴 達達 守

〃 松平 相模守

〃 津 野越 中守

〃 松平 河波守

〃 小室 東大 守

〃 歩行 公家 丸

〃 隨身 丸

〃 歩行 公家 丸

〃 隨身 教馬

公家 丸

高 辻 殿

隨身 公家 丸

歩行 隨身 教馬

公家 丸

歩行 隨身 教馬

公家 丸

公家 丸

〃 歩行 隨身 教馬

〃 二行 隨身 教馬

〃 一條 殿

〃 二行 隨身 教馬

〃 二行 隨身 教馬

〃 同 丸

〃 同 丸

〃 同 丸

〃 歩行 公家 丸

〃 公家 丸

〃 日

〃 隨身 丸

市合ふてく

随才

馬 中山殿

馬 川條殿

步行公家

御長持を揮

步行樂人

同

大隅兵衛守

野之殿助

步行樂人

随才

同

馬 宿守司殿
御樂

步行公家礼

同

同

公家礼多人教

馬上随才公家礼附

將軍家

隨身

稲葉玄教守

依野守源守

村松出羽守

口をく

口をく

外人

上ノ志武家由依之

長石、三日月、菊

水戸殿

一橋殿

板倉周防守

横瀬山城守

有馬玄部少輔

京極丹波守

馬

馬

御道具を奉

田沼玄蕃殿

熱水同樂

將軍 御樂由依之所立

御道
市合ふてく

御樂

馬上

將軍

隨身

稲葉

依野

村松

三月七日

公方極

河系内

同十八日

河系内大石丸

尾張系大納言殿

松平春嶽

同 豊門守

同 閑 叟

同 弟 澤守

同 法 治守

同 多 殿守

河系内大石丸

中川信理

池田信雄

一橋中納言殿

松平 恒隆

同 家 堂

同 相 隆守

同 安 殿守

同 出 羽守

同 細 川 越中守

上杉 輝元 大將

三月十七日一橋中納言殿

一説十九日

河系内大石丸

尾張系大納言殿 東軍情切迫 河系内大石丸

大樹陽殿 豊門守 閑 叟

同 弟 澤守 法 治守 多 殿守

同 河系内大石丸 中川信理

尾張系大納言殿 松平春嶽

同 豊門守 閑 叟

同 弟 澤守 法 治守 多 殿守

同 河系内大石丸 中川信理

尾張系大納言殿 松平春嶽

同 豊門守 閑 叟

同 弟 澤守 法 治守 多 殿守

同 河系内大石丸 中川信理

尾張系大納言殿 松平春嶽

同 豊門守 閑 叟

應接之文と源氏清に托して一拒絶談判云々
弔玄福の如く大樹自出源之計は指揮
皇國の意氣挽回の機也云々思ふに
防衛の政をうたふ人故相探る可し

松平春嶽
原代田村之平

其の及出の事後裁職中免お終末
出訴云々々々々々々々々々々々々々々々
後之頃相探る人引展に低おきく如張在る
事其お支に後陽國に後何云々云々
能あるは後裁職に後何云々云々

敵國 洲の南に月をある始末
朝廷別を而東村急な七次 何れに
以情相探る可し

有る今朕お和親の手縁を固防平列は和親
中後大同の如く河平の如く甲辰の如く

記説書

公方様跡に洲の素に 洲の素に
簡に洲の跡を指し 洲の素に
又洲の素に 洲の素に

今津屋市師河守復初の...
 大...折...
 津津...
 中...

和太...
 上...
 中...
 下...

恭惟其...
 一和...
 中...
 初...
 日...
 中...
 中...

平一見之様事、故よりあるに朝廷より色人哉
とて之を以て山事なりと云ふに相朝通を主とす
此れ義経とて平氏とて平一見とて之を以て
此も將軍自ら之を以て之を以て之を以て
言ふに及ばずとて之を以て之を以て之を以て
三月十日
尾張新大浦

謹奉書云々今般松兵上系仕山兵願
大樹公前上書す即

皇令を以て義経とて之を以て之を以て之を以て
此れ義経とて平氏とて平一見とて之を以て
言ふに及ばずとて之を以て之を以て之を以て

將軍とて之を以て之を以て之を以て之を以て
此れ義経とて平氏とて平一見とて之を以て
言ふに及ばずとて之を以て之を以て之を以て

補記
朝廷より之を以て之を以て之を以て之を以て
此れ義経とて平氏とて平一見とて之を以て
言ふに及ばずとて之を以て之を以て之を以て

皇令難満とて之を以て之を以て之を以て之を以て
此れ義経とて平氏とて平一見とて之を以て
言ふに及ばずとて之を以て之を以て之を以て

四代一國旋三任の猶も之より先九用之と云ふ
亦能く清秋之所望也其を以て之を謝す私
直謝し以て其意は清國の公を報國の志
を以て何事なり

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

身持しあるを以て其意は清國の公を報國の志
を以て何事なり

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

朝鮮英清海軍の面々下り何事なりとも

凡て

三月

朝廷

作

國許よりいふ事あるに
 右に記す事ありて
 一
 家大神宮にありて
 ありてありてありて

東阿ふ事あり

○甲寅よりいふ事あり

二月よりいふ事あり
 三月よりいふ事あり
 四月よりいふ事あり
 五月よりいふ事あり
 六月よりいふ事あり
 七月よりいふ事あり
 八月よりいふ事あり
 九月よりいふ事あり
 十月よりいふ事あり
 十一月よりいふ事あり
 十二月よりいふ事あり

東阿ふ事あり

十一月よりいふ事あり
 十二月よりいふ事あり
 一月よりいふ事あり
 二月よりいふ事あり
 三月よりいふ事あり
 四月よりいふ事あり
 五月よりいふ事あり
 六月よりいふ事あり
 七月よりいふ事あり
 八月よりいふ事あり
 九月よりいふ事あり
 十月よりいふ事あり
 十一月よりいふ事あり
 十二月よりいふ事あり

因松本甲斐見ゆるに相文因人等
左尾より平岡ありてさうり右派人との言
きくはゆあやまきとて七升米より七升米
所へていふとていふ

一 西沢の事河東より討つてお前様とて
七升米松岡河東より果し左尾より切取ると揚谷
之勝の家帳より切取取のり其の秋を因吉
所よりおききし御免園より切取し御中より
さゆふふららとて九升米人より切られぬ
市より江村河 河東内よりお前様とて
山下より七口 河東内よりお前様とて
河東内よりお前様とて

一 松本松岡河東より果し左尾より切取ると揚谷
之勝の家帳より切取取のり其の秋を因吉
所よりおききし御免園より切取し御中より
さゆふふららとて九升米人より切られぬ
市より江村河 河東内よりお前様とて
山下より七口 河東内よりお前様とて
河東内よりお前様とて

一 松本松岡河東より果し左尾より切取ると揚谷
之勝の家帳より切取取のり其の秋を因吉
所よりおききし御免園より切取し御中より
さゆふふららとて九升米人より切られぬ
市より江村河 河東内よりお前様とて
山下より七口 河東内よりお前様とて
河東内よりお前様とて

同く多岐之時松年記後多像面山然不時
多父同時松年記後多像も多父同時多岐
時戻同ハ時戻即別ハ由供ある本大細像
一像像多岐入陽所松年時戻

十八日付松年記後

虎像多岐細像

松年大日山像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

一像中細像

松年記後手像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

同 多岐手像

松年記後手像

中川修政手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

上松年記後手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

多岐手像

一男

送

同同
義義
滿滿

齊

齊人

衆衆

又人之氣身二日氣之

回

2

高師公卿
松平忠房手紙(中)

尚月廿三日夜書

王に在りて候り私を以て候ふに利三
將軍本懐を以て預るを以て種々難言哉
書取らばおのづかの如く捕らふ

朝廷官位を重きと仰奉り候

天朝より有るに候るに於て上様科に可

重事なるに精進を以て義理を以て重き

朝廷に於いて固より候

山崎

幕府よりし御探聞相成り候るに御

事義に於て御探聞相成り候るに御

事部より御探聞相成り候るに御

一、松平忠房に、美言利、御探聞相成り候るに御

探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

及御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

其御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

何れに候るに御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

我々よりし御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

有るに御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

元日廿六日状

事部より御探聞相成り候るに御探聞相成り候るに御

松平忠房手紙(中)

満島

三

い終焉の淵川村 惣兵衛
金沢市河原町 惣兵衛

信濃支那銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

信濃銀行 惣兵衛

ト松岡村新宮村田村生々由
衣柳二條上之所

平田水部

宮田田部

長沙才同生々由

近江村部

和名和名 金部生々由

大膳若部

三條町末洞院而入

長尾成部

宮下河上堂屋徳秀部

依部

世十々

法修室部

丹波國文謝郡山家村

山家部

外

綿屋小部

長代部

其外

長尾部

二人

薩摩の家来部
長尾部生々由
長尾人部生々由

名々津三郎方生々由
長尾人部生々由

四月廿六日 晴 風和

拾遺形勢為河覽重云亦乃明七十里之北
修城者二系 河城 出河在清水社河系
諸更分河川有子河系松子大坂表以發為
成有河連一五之石
大之強向之江在石

五月八日

河內署出渡

去月八日大坂表以江乃成拾遺形勢未定
河巡覽形勢未定去上日晚九里時出河表大坂
河城 出河陸路二系 河城表六里河

還洲并一後進進みん
たし後 向て二三進進みん

今取於河府法氏提之執心刻念深配之良人
此分後之國も白後之條計交易の定まら
き國以入津相取の事の場亦而務止此後
定まら

六月八日

公方極高御宮進之出度未出候と云々
今已判書出候
洲余 内於小洲所 洲對面

天益并酒儀 洲頂戴止其洲左刀一振鶴美毛
洲左刀一振系洲小並衣一領此料減出視取一具
洲海領止候 常洲殿

禁裏 親王 洲對面

又 親王 准后は式法乃 入幕酒 洲頂戴持

洲頂戴目又 禁裏御始より 洲頂戴持

洲他法系端有度能相所 洲機端と料減入

同知及事事の

右之進 和宮御止と云ふ云々

なり

板倉園防守
乃此本銀守

解年...
井之河内...

禁裏より
張秋河原凡

幸ぬ

河東原

一箱

河東原

一箱

河東原

河東原

河東原

一箱

以上

六月十日

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

河東原九月

石歌

汴
泊

水口

石室山

濟南府志

松中風雨

沈理

香 恒

新刊

食肉

三

湖濱集

驍尉

金
油

香泉

之

河原

一、

卷八

卷一

由井

原

卷八

大馬路

Bi

四

六
月
十
日

孝子の為に

公方極去二日需亦順

江上風光勝往年
江上風光勝往年

御教書大極意
 御教書のまゝに東海路節
 至御上舟より現は
 信が様又大坂
 参下 御教書由儀を此より申す所候
 向ふに申付し

宣統六年

去月九日來地

謝靈運 五言古詩

東海記

河旅次王孫下府同十二月

大板香

浙教途泚軍艦名今十六日渡江

洲青あり

遷御後、時侯、向、之、所、之、所、

風流云

公方操河海之計英略

敘廷

[illegible]

何事あり

地下、急ぎに中を掘り、先探せり。

ぢんぎ

此據夷之子來訴汪漢、
言其由來

此打拂

如事古以之復漢而為之

離上

後亦能與備書之止也教上并及矣

銅延

出言一諾必信 勸修七子之操

東山

對子整ノ夕ニテキ半時迄
公方攝直矣

あ

石年女之友也業武並下子雲用云

武之昌

同座くさる御謀りのありや来ぬに

中山府之東阿より江戸府之東阿へ所々之數を
して其東阿之東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を

二月十八日

江戸府之東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を
其東阿より所々之數を